

平成 28 年 2 月 21 日 (日) 施行

## 第 181 回 全経簿記能力検定試験 1 級 工業簿記 解説

### 第 1 問

1. 原価計算基準 第一章 二 原価計算制度 参照
2. 原価計算基準 第二章 一七 部門個別費と部門共通費 参照
3. 原価計算基準 第二章 二八 副産物等の処理と評価 参照

### 第 2 問

1. 仕掛品に計上されている自家用機械製造分の原価を機械勘定に振り替える。
2. 「販売可能な第 1 工程完了品」：第 1 工程半製品 ⇒ これを第 2 工程仕掛品に振り替える。
3. 素材 ¥895,000
  - ⇒ A 組仕掛品 ¥386,000
  - ⇒ B 組仕掛品 ¥437,000
  - ⇒ 組間接費 ¥72,000
4. 単位販売価格は  $¥1,800 \times 1.35 = ¥2,430$ 
  - 売 上：  $¥2,430 \times 600 \text{ 個} = ¥1,458,000$
  - 売上原価：  $¥1,800 \times 600 \text{ 個} = ¥1,080,000$
5. 予算額 ¥2,750,000 - 実際発生額 ¥2,786,000 = 予算差異 △ ¥36,000 (不利差異)
6. 工場と本社の仕訳は以下のとおりである。工場側の仕訳が解答となる。

(本社)	(借)	工 場	1,600,000	(貸)	当 座 預 金	800,000
					買 掛 金	800,000
(工場)	(借)	素 材	1,243,000	(貸)	本 社	1,600,000
		工場消耗品	357,000			

### 第 3 問

連産品では各製品の正常市価をもとづく等価係数として用いる。

- (1) A 製品について、積数が 4,000、生産量が 1,000kg より、等価係数は 4
- (2) B 製品について、 $@ ¥2,200 : @ ¥550 = 4 : 1$  (B 製品等価係数) → B 製品等価係数は 1
- (3) C 製品について、 $@ ¥2,200 : (C \text{ 製品正常市価}) = 4 : 3$  → C 製品正常市価は  $@ ¥1,650$
- (4) B 製品積数  $1 \times 1,500 = 1,500$   
 C 製品積数  $3 \times 600 = 1,800$   
 積数合計  $4,000 + 1,500 + 1,800 = 7,300$
- (5) 原価のあん分

$$¥3,869,000 / 7,300 = ¥530$$

$$A \text{ 製品原価} : ¥530 \times 4,000 = ¥2,120,000$$

$$A \text{ 製品単価} : ¥2,120,000 / 1,000\text{kg} = @ ¥2,120$$

$$B \text{ 製品原価} : ¥530 \times 1,500 = ¥795,000$$

$$B \text{ 製品単価} : ¥795,000 / 1,500\text{kg} = @ ¥530$$

$$C \text{ 製品原価} : ¥530 \times 1,800 = ¥954,000$$

$$C \text{ 製品単価} : ¥954,000 / 600\text{kg} = @ ¥1,590$$

## 第4問

### 1. 素材と工場消耗品の購入

(借) 素 材	1,866,800	(貸) 買 掛 金	2,131,500
工場消耗品	264,700		

### 2. 素材の消費

予定価格は¥940/kgより、製造指図書及び製造間接費に以下のとおり配賦する。

#101	#102	#103	#102-R1	間接材料費	合 計
¥667,400	¥582,800	¥451,200	¥56,400	¥150,400	¥1,908,200

→ 原価計算表「直接材料費」#101～#102-R1

(借) 仕 掛 品	1,757,800	(貸) 素 材	1,908,200
製造間接費	150,400		

### 3. 材料消費価格差異の計上

素材の実際消費量は¥1,902,600より、材料消費価格差異は

$$¥1,908,200 - ¥1,902,600 = ¥5,600 \text{ (有利差異)}$$

(借) 素 材	5,600	(貸) 材料消費価格差異	5,600
---------	-------	--------------	-------

### 4. 棚卸減耗費

	素 材		
月初棚卸高	¥325,900	¥1,757,800	直接材料費
当月仕入	¥1,866,800	¥150,400	間接材料費
消費価格差異	¥5,600	¥4,700	棚卸減耗
		¥285,400	月末棚卸高

月末実地棚卸高が¥258,400なので、貸借差額より棚卸減耗費は¥4,700 → 製造間接費へ

(借) 製造間接費	4,700	(貸) 素 材	4,700
-----------	-------	---------	-------

5. 工場消耗品の振り替え

		工場消耗品		
前月繰越	¥48,300	¥266,300	→	製造間接費
当月仕入	¥264,700			
		¥46,700		次月繰越

期末実地棚卸高は¥46,700より、実際消費高は

$$¥48,300 + ¥264,700 - ¥46,700 = ¥266,300$$

(借) 製造間接費	266,300	(貸) 工場消耗品	266,300
-----------	---------	-----------	---------

6. 給与の支払

(借) 賃金給料	2,417,100	(貸) 当座預金	2,176,100
		預り金	241,000

7. 直接工の賃金消費

予定賃率は¥1,520/時間より、製造指図書及び製造間接費に以下のとおり配賦する。

#101	#102	#103	#102-R1	間接労務費	合計
¥714,400	¥532,000	¥319,200	¥121,600	¥349,600	¥2,036,800

→ 原価計算表「直接労務費」#101~#102-R1

(借) 仕掛品	1,687,200	(貸) 賃金給料	2,036,800
製造間接費	349,600		

8. 賃率差異の計上

		賃金給料 (直接工)		
当月支払高	¥1,985,200	¥362,800	→	月初未払高
		¥1,687,200		直接作業分
		¥349,600		間接作業分
月末未払高	¥416,500	¥2,100		賃率差異

月末未払賃金高が¥416,500なので、実際消費高は

$$¥1,985,200 + ¥416,500 - ¥362,800 = ¥2,038,900$$

よって賃率差異は

$$¥2,036,800 - ¥2,038,900 = \triangle ¥2,100 \text{ (不利差異)}$$

(借) 賃率差異	2,100	(貸) 賃金給料	2,100
----------	-------	----------	-------

9. 間接工の賃金消費

		賃金給料 (間接工)		
当月支払高	¥431,900	¥78,900	→	月初未払高
月末未払高	¥105,600	¥458,600		実際消費高

取引6より、給与総支給額¥2,417,100のうち直接工分が¥1,985,200なので、間接工分は

$$¥2,417,100 - ¥1,985,200 = ¥431,900$$

よって実際消費高は

$$¥431,900 + ¥105,600 - ¥78,900 = ¥458,600$$

(借) 製造間接費	458,600	(貸) 賃金給料	458,600
-----------	---------	----------	---------

10. 製造部門費の製造指図書への配賦

予定配賦率は第1製造部門費¥1,250、第2製造部門費¥1,140より、機械運転時間をもとに配賦

	#101	#102	#103	#102-R1	合計
第1製造部門費	¥450,000	¥337,500	¥300,000	¥37,500	¥1,125,000
第2製造部門費	¥433,200	¥376,200	¥273,600	¥57,000	¥1,140,000

→ 原価計算表「第1製造部門費」「第2製造部門費」#101～#102-R1

(借) 仕掛品	1,125,000	(貸) 第1製造部門費	1,125,000
(借) 仕掛品	1,140,000	(貸) 第2製造部門費	1,140,000

11. 製造経費の支払い

(借) 製造間接費	589,200	(貸) 当座預金	589,200
-----------	---------	----------	---------

12. 減価償却費の製造間接費への計上

(借) 製造間接費	450,000	(貸) 減価償却累計額	450,000
-----------	---------	-------------	---------

13. 製造間接費の各原価部門への振り替え

(借) 第1製造部門費	773,000	(貸) 製造間接費	2,268,800
第2製造部門費	679,300		
A 補助部門費	440,000		
B 補助部門費	376,500		

14. 補助部門の製造部門への配賦

問題指定の割合で配賦すると以下のとおり

	第1製造部門	第2製造部門
A 補助部門費	¥132,000	¥308,000
B 補助部門費	¥225,900	¥150,600

(借) 第1製造部門費	132,000	(貸) A 補助部門費	440,000
第2製造部門費	308,000		
(借) 第1製造部門費	225,900	(貸) B 補助部門費	376,500
第2製造部門費	150,600		

15. 作業くず評価額の控除

(借) 作業くず	3,200	(貸) 第1製造部門費	3,200
----------	-------	-------------	-------

16. 製造部門費配賦差異の計上

(1) 第1製造部門費

予定配賦額は  $\text{¥}1,250(\text{予定配賦率}) \times 900 \text{ 時間} = \text{¥}1,125,000$

実際発生額は 13.・14.・15.より  $\text{¥}773,000 + \text{¥}132,000 + \text{¥}225,900 - \text{¥}3,200 = \text{¥}1,127,700$

部門費配賦差異は

$\text{¥}1,125,000 - \text{¥}1,127,700 = \Delta \text{¥}2,700$  (不利差異)

(借) 製造部門費配賦差異	2,700	(貸) 第1製造部門費	2,700
---------------	-------	-------------	-------

第2製造部門費の予定配賦額は  $\text{¥}1,140(\text{予定配賦率}) \times 1,000 \text{ 時間} = \text{¥}1,140,000$

実際発生額は 13.・14.・15.より  $\text{¥}679,300 + \text{¥}308,000 + \text{¥}150,600 = \text{¥}1,137,900$

部門費配賦差異は

$\text{¥}1,140,000 - \text{¥}1,137,900 = \text{¥}2,100$  (有利差異)

(借) 第2製造部門費	2,100	(貸) 製造部門費配賦差異	2,100
-------------	-------	---------------	-------

摘 要	合 計	第1製造部門	第2製造部門	A 補助部門	B 補助部門
部 門 費 合 計	2,268,800	773,000	679,300	440,000	376,500
A 補 助 部 門 費	440,000	132,000	308,000		
B 補 助 部 門 費	376,500	225,900	150,600		
作 業 ぐ ず 評 価 額	3,200	3,200	—		
実 際 発 生 額	2,265,600	1,127,700	1,137,900		
予 定 配 賦 額	2,265,000	1,125,000	1,140,000		
部 門 費 差 異	(-) 600	(-) 2,700	(+) 2,100		

17. 補修指図書#102-R1→製造指図書#102への賦課

原価計算表より、補修指図書#102-R1は  $\text{¥}272,500$

(借) 仕 掛 品	272,500	(貸) 仕 掛 品	272,500
-----------	---------	-----------	---------

→原価計算表「補修費」

製造指図書#101と#102が完成したので

$\text{¥}2,874,600 + \text{¥}2,482,900 = \text{¥}5,357,500$  を仕掛品から製品に振り替える。

(借) 製 品	5,357,500	(貸) 仕 掛 品	5,357,500
---------	-----------	-----------	-----------